

# 安全データシート(Safety Data Sheet)

## シクロヘキサノン

作成日 2003年12月05日

改訂日 2016年06月01日

### 1. 化学品及び会社情報

化学物質名：	シクロヘキサノン
製品コード：	S-0024
会社名：	三成化工株式会社
住所：	大阪府大阪市城東区関目 4-11-38
電話番号：	06-6932-3531
緊急連絡電話番号：	090-1133-1763 / 090-1966-9728
ファックス番号：	06-6932-3830
メールアドレス：	<a href="mailto:sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp">sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp</a>
推奨用途及び使用上の制限：	合成原料、溶剤、塗料溶剤

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性：	爆発物	分類対象外
	可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性又は酸化性ガス類	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分3
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性-経口	区分4
	急性毒性-経皮	区分3
	急性毒性-吸入(ガス)	分類対象外
	急性毒性-吸入(蒸気)	区分3
	急性毒性-吸入(粉じん)	分類対象外
	急性毒性-吸入(ミスト)	区分外

	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
	感作性－呼吸器	分類できない
	感作性－皮膚	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1 呼吸器系
		区分2 中枢神経系
		区分3 麻酔作用
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1 中枢神経系
		区分1 骨
環境に対する有害性：	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性(急性)	区分外
	水生環境有害性(長期間)	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

#### GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

- [H226] 引火性の液体および蒸気
- [H302] 飲み込むと有害
- [H311] 皮膚に接触すると有毒
- [H331] 吸入すると有毒
- [H315] 皮膚刺激
- [H319] 強い眼刺激
- [H317] アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- [H336] 眠気またはめまいのおそれ
- [H341] 遺伝性疾患のおそれの疑い
- [H361] 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- [H370] 呼吸器系の障害
- [H371] 中枢神経系の障害のおそれ
- [H372] 長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系、骨の障害

注意書き

【安全対策】：

- [P201] 使用前に取扱説明書を入手すること。
- [P202] 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- [P210] 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- [P233] 容器を密閉しておくこと。
- [P240] 容器を接地しアースを取ること。

- [P241] 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
- [P242] 火花を発生させない工具を使用すること。
- [P243] 静電気放電に対する措置を講ずること。
- [P260] 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- [P261] 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- [P264] 取扱い後は手をよく洗うこと。
- [P270] この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- [P271] 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- [P272] 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- [P280] 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 【応急措置】:** [P301+P312] 飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。
- [P302+P352] 皮膚に付着した場合:多量の水/石鹸で洗うこと。
- [P303+P361+P353] 皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水(またはシャワー)で洗うこと。
- [P304+P340] 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- [P305+P351+P338] 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- [P308+P311] ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
- [P308+P313] ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。
- [P311] 医師に連絡すること。
- [P312] 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- [P314] 気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。
- [P321] 特別な処置が必要である(このラベルの・・・を参照)。
- [P330] 口をすすぐこと。
- [P332+P313] 皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。
- [P332+P313] 皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。
- [P337+P313] 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。
- [P361+P364] 汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- [P362+P364] 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- [P370+P378] 火災の場合:消火するために粉末、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。
- 【保管】:** [P403+P233] 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- [P403+P235] 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに

	置くこと。
	[P405] 施錠して保管すること。
【廃棄】：	[P501] 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：	化学物質
化学名(又は一般名)：	シクロヘキサノン
別名：	ケトシクロヘキサン(Ketocyclohexane) オクソシクロヘキサン(Oxocyclohexane) ピメリンケトン(Pimerin ketone)
化学式：	C <sub>6</sub> H <sub>10</sub> O(分子量 98.14)
CAS 番号：	108-94-1
官報公示整理番号：	(3)-2376(化審法・安衛法)
分類に寄与する不純物 及び安定化添加物：	情報なし
濃度又は濃度範囲：	100%

### 4.応急措置

吸入した場合：	被災者をただちに空気の新鮮な場所に移す。 呼吸停止または呼吸が弱い場合は人工呼吸をする。(衣類を緩め気道を確保する) 毛布などを使用して身体の保温に努め安静に保つ。
皮膚に付着した場合：	汚染された衣服、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。 多量の水または石けん水で十分に洗い落とす。 高温の液体が付着した場合は、清浄な流水で冷やし火傷の進行を防ぐ。 皮膚刺激があれば、医師の手当、診断を受けること。
眼に入った場合：	清浄な流水で最低 15 分間眼を洗浄する。 洗眼の際、眼球とまぶたの隅々まで洗浄する。 コンタクトレンズは固着していない限り取り除いて洗浄する。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	揮発性なので吐き出させると、かえって危険が増す。ただちに医師の診断、手当てを受ける。 水でよく口の中を洗わせてもよい。 意識がない被災者には、口から何も与えてはならない。
予想できる急性症状 及び遅発性症状の 最も重要な兆候症状：	吸入：咳、咽頭痛、めまい、し眠。 皮膚：皮膚の乾燥、発赤。 眼：発赤、痛み。 経口摂取：腹痛、灼熱感。
応急措置をする者の保護：	許容濃度をはるかに超えると、意識が低下することがある。 必要に応じて有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器、手袋等の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項：	上記参照。

---

## 5.火災時の措置

消火剤：	小火災：粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤：	火源へ直接に棒状注水
特有の危険有害性：	揮発性が高くかつ引火性の強い液体であり、空気との爆発性混合ガスを形成する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 蒸気が空気と爆発性混合気を生成するおそれがある。 屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。
特有の消火方法：	火元への燃料源を断つ。 消火作業は風上から行う。 周囲の可燃物設備を散水して冷却する。 移動可能な可燃物容器は安全な場所へ移す。
消火を行う者の保護：	消火作業は、適切な保護具(自給式呼吸器、防火服、防災面等)を着用する。

---

## 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 風下の人を退避させ、漏出した場所から人を遠ざける。 ロープ等を張り関係者以外立入禁止とする。 作業には適切な保護具を着用し、風上から作業する。
環境に対する注意事項：	側溝、下水、河川に流出しないように注意する。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材：	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。 吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止器具を用いる。
回収：	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 水上に流出した場合、吸収材を使用して回収すること。
二次災害の防止策：	すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行う。
(局所排気・全体換気等)：	
安全取扱注意事項：	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの

接触回避：	取扱いをしてはならない。
衛生対策：	接触、吸入又は飲み込まないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	酸化剤
適切な技術的対策：	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管条件：	消防法の規定に従った技術的対策をとる。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触危険物質：	直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管し、着火源、高温物体等を近づけない。
安全な容器包装材料：	容器を密閉して保管すること。 酸化性物質と保管を区分する。 保管時は施錠を行う。
	酸化性物質
	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度：	20ppm
許容濃度	
日本産業衛生学会：	25ppm 100mg/m <sup>3</sup> (2009年版)
ACGIH：	TWA 20ppm STEL50ppm Skin(2009年版)
設備対策：	屋内の取扱い場所は局所または全体排気装置を設ける。 取扱い場所の電気機器は防爆構造とし、機器類は静電気対策をする。 取扱い場所の近くに緊急用の洗眼器、シャワーを設置し、その位置を表示する。 高熱取扱いで、工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸用保護具：	防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器
手の保護具：	保護手袋(耐油性)
眼の保護具：	保護眼鏡、ゴーグル
皮膚及び身体の保護具：	保護長靴(耐油性)、防災面、保護服、保護前掛

## 9.物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色など)：	無色透明な液体
臭い：	特徴臭
臭いのしきい(閾)値：	データなし
pH：	データなし
融点・凝固点：	-32.1℃：Merck(14th,2006)
沸点、初留点及び沸点範囲：	155.6℃(760mmHg)：Merck(14th,2006)
引火点：	44℃(密閉式)：HSDB(2002)
蒸発速度：	データなし

燃焼性(固体、気体) :	データなし
爆発範囲 :	1.1-9.4vol%(100°C) : ICSC(2002)
蒸気圧 :	4.33mmHg(25°C) : Howard(1997)
蒸気密度 :	3.4 : Sax(11th,2004)
比重(相対密度) :	0.95(20°C,4°C) : Chapman(2005) 0.9478g/cm <sup>3</sup> (20°C) : Lide(88th, 2008)
溶解度 :	水 : 25000mg/L : PHYSPROP Database(2005) アセトン、エーテル、アルコール : 可溶 : HSDB(2002)
n-オクタノール/水分配係数 :	logP=0.081(測定値) : SRC(2005)
自然発火温度 :	420°C : ホンメル(1991)
分解温度 :	データなし
粘度(粘性率) :	2.017mPa·s(25°C) : Lide(88th, 2008)

## 10.安定性及び反応性

反応性、化学的安定性 :	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性 :	強力な酸化剤(硝酸など)と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。44°C以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
避けるべき条件 :	44°C以上
混触危険物質 :	強力な酸化剤
危険有害な分解生成物 :	爆発性混合気体

## 11.有害性情報

急性毒性	
経口 :	ラットのLD50値が13件(1620,1840,1800,1400,1296,1540,1550,800-1600,1840,2000,2650,3460,1534mg/kg)報告されている(SIDS(access on Apr,2009)、DFGOT vol.10(1998))。そのうち重複が1件、300<ATE<2000mg/kgが9件、>2000mg/kgが3件である。これに基づき区分4とした。
経皮 :	ウサギLD50=947mg/kg(DFGOT(1998),PATTY(2001))により、区分3とした。
吸入(ガス) :	GHSの定義における液体である。
吸入(蒸気) :	ラットLC50=2450ppm(換算値9.8mg/L)(ACGIH(2003))に基づき、区分3とした。なお、飽和蒸気圧濃度=5700ppm(25°C)(Howard,1997)より、蒸気での試験とみなす。
吸入(粉じん) :	GHSの定義における液体である。
吸入(ミスト) :	ラットLC50=8000ppm(32.1mg/L)(ACGIH(2003))に基づき、区分外とした。なお、飽和蒸気圧濃度=5700ppm(25°C)(Howard,1997)より、ミストでの試験とみなす。
皮膚腐食性/刺激性:	ウサギの皮膚に2種類のシクロヘキサノンのサンプルを閉塞適用し、その1種で壊死を認め腐食性と判定された(SIDS(access on Apr, 2009))結果がある。しかし、ウサギを用いた腐食性評価の試験で腐食性なし(SIDS(access on Apr, 2009))、また、原液を開放適用した別の試験で刺激性なし(SIDS(access on Apr, 2009))、さらに、試験物質の99%液を24時間閉塞適用した試験では著しい刺

眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性：	<p>激性が見られたが、徐々に軽快し7日目までに消失した(PATTY (5th,2001))など、腐食性を否定する複数の証拠に基づき、区分2とした。</p> <p>ウサギの眼に試験物質原液を適用により著しい刺激性と角膜損傷を起こした(ACGIH(2003))。軽度の虹彩炎と結膜炎を伴う角膜傷害は可逆的であったが、適用14日後に未だ角膜に軽度の影響が残っており(SIDS(access on Apr, 2009))、区分2Aとした。なお、水溶液で適用した場合に一部で腐食性の結果(SIDS(access on Apr, 2009))も報告されている。また、眼に関するヒトの情報(PATTY(5th, 2001))は吸入ばく露によるものであるので採用しない。</p>
呼吸器感作性又は 皮膚感作性：	<p>呼吸器感作性：データなし</p> <p>皮膚感作性：Frosch 接触アレルギーリスト(FROSCH, TEXTBOOK OF CONTACT DERMATITIS)に記載されているため区分1とした。</p>
生殖細胞変異原性：	<p>ラットの皮下投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)の陽性結果(SIDS(access on Apr, 2009))に基づき、区分2とした。なお、その他の in vivo 試験として、マウスの吸入投与による優性致死試験(経世代変異原性試験)において陰性(SIDS(access on Apr, 2009))、ラットの吸入投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)で陰性の報告がある。また、in vitro 試験では Ames 試験(IARC 47(1989)、SIDS(access on Apr, 2009))では陰性ならびに陽性、CHO 細胞またはヒトリンパ球を用いた染色体異常試験(IARC 47 (1989)、SIDS(access on Apr, 2009))ではそれぞれ陰性または陽性、マウスリンパ腫 L51784 を用いた前進突然変異試験で陰性の報告がある。</p>
発がん性：	<p>IARCによる発がん性評価がグループ3であり(IARC 47 (1989)、IARC 71(1999))、ACGIHはA3に分類している(ACGIH(2003))が、ACGIH(2003)では新たな知見による評価でなないため、総合的にIARCによる評価を採用し区分外とした。なお、ラットおよびマウスに2年間飲水混入により投与した試験において、ラットでは雄の低用量群で副腎皮質の腺腫の有意な増加、雄の高用量群で甲状腺濾胞細胞の腺腫・癌腫の(有意でない)増加が報告されている(IARC 47 (1989))。一方、マウスでは雄の低用量群で肝細胞の腺腫・癌腫の有意な増加、雌の低用量群で悪性リンパ腫および白血病の増加が報告されている(IARC 47(1989))が、いずれも低用量群の動物においてであり、この系統のマウスによく見られる腫瘍の軽度の発生増加であった。</p>
生殖毒性：	<p>ラットの吸入ばく露による二世世代試験(DFGOT vol.10 (1998)、SIDS(access on Apr, 2009))において、流涙、不規則呼吸、運動失調など毒性症状が発現する高用量(5700mg/m<sup>3</sup>)群でF1世代の仔の数が減少したが、この影響は雄生殖能の低下と捉えられ、次世代の生存率低下を招いたことから、区分2と</p>

特定標的臓器毒性(単回ばく露) :	<p>した。なお、ラット、マウスおよびウサギの器官形成期あるいは妊娠期間中に吸入または経口ばく露した試験(SIDS(access on Apr, 2009)、DFGOT vol.10(1998))では、いずれ動物種も催奇形性を含め仔の発生に対し悪影響は認められていない。</p> <p>ラットおよびマウスの経口投与により催眠症状が現れ(SIDS(access on Apr, 2009))、さらにモルモットの吸入ばく露およびウサギの経口投与後の症状として麻酔が記載されている(SIDS(access on Apr, 2009))ことから区分 3(麻酔作用)とした。また、高用量の場合は死亡に至り、急性毒性用量(LD50 : 1300 ~ 3500mg/kg)における症状は中枢神経系の抑制であると記述されているので、区分 2(中枢神経系)とした。また、ラットに 475 ~ 3800mg/kg の経口投与試験における肺の出血(SIDS(access on Apr, 2009))、マウスに 19.2mg/L を 90 分(4 時間補正 : 7.2 mg/L)吸入ばく露(蒸気)した試験における肺のうっ血と水腫、肺実質の限局性または慢性出血の所見(SIDS(access on Apr, 2009))に基づき、区分 1(呼吸器系)とした。なお、ヒトのボランティア試験で認められた鼻と咽喉の著しい刺激性(ACGIH(2003))は、気道刺激性とせず呼吸器系への影響に含めた。また、ヒトの事故または自殺によるばく露事例(DFGOT vol.10(1998)、(PATY(5th, 2001)))で、肝炎、肝酵素の上昇、肝細胞の膨化と炎症性浸潤など肝障害を示す所見が得られているが、いずれも混合物のばく露の結果であり、他の成分による可能性を否定できず本物質によるものとは断定できないので採用せず、PATY(5th, 2001)に脾臓についての記述もあるが、動物種、用量、ばく露期間などを特定できず、かつ他の評価書にも関連情報の記載がないことから、採用しなかった。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露) :	<p>家具製造工場で木材にシクロヘキサノン塗る作業の間にばく露を受けた 75 人の労働者について、神経毒性学的影響の調査が行われた。その結果、気分不良、記憶困難、睡眠障害などの神経毒性症状の報告割合が増加している(PATY(5th, 2001))ことが明らかになったことと併せ、本物質には中枢神経抑制作用があるとされている(ACGIH(2003))ことから、区分 1(中枢神経系)とした。以上の調査で同時に報告率が増加した症状として、リウマチ症状(骨痛、関節痛、筋肉痛)があるが、これらの症状の中で骨痛については別の評価書でも記載されている(ACGIH(7th, 2003))ので採用し、区分 1(骨)とした。なお、肝臓と腎臓に関しては、PATY(5th, 2001)に"Liver and kidney effects"との記述があるが、それ以上の具体的な記載がなく、他の評価書でも記載または引用されていないので採用しなかった。</p>
吸引性呼吸器有害性 :	<p>動粘性率(40℃) &lt; 14mm<sup>2</sup>/s と考えられ(動粘性率=2.13mm<sup>2</sup>/s (24℃)(Renzo(3rd, 1986))に基づく)、また、「13 を超えない炭素原子で構成されたケトンであることから旧分類の区分 2 相当であるが、区分 1 を示すデータはなく、区分 2 を使用しない JIS 準拠のガイダンス文書に従い分類できないとした。</p>

## 12.環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性(急性) :	魚類(ファットヘッドミノー)での 96 時間 LC50=527mg/L (SIDS,1996, 他)、甲殻類(オオミジンコ)での 24 時間 LC50=800mg/L(SIDS,1996)であることから、区分外とした。
水生環境有害性(長期間) :	難水溶性でなく(水溶解度=25000mg/L(PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
残留性・分解性 :	情報なし
生体蓄積性 :	情報なし
土壌中の移動性 :	情報なし
オゾン層への有害性 :	情報なし

## 13.廃棄上の注意

残余廃棄物 :	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装 :	汚染容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14.輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報 :	IMO の規定に従う。
国連番号 :	1915
品名(国連輸送名) :	CYCLOHEXANONE
国連分類 :	クラス 3
容器等級 :	III
海洋汚染物質 :	非該当

### 国内規制

陸上規制情報 :	消防法の規定に従う。
容器 :	危険物の規制に関する規則別表第 3 の 2
容器表示 :	第 2 石油類、危険等級 III、数量、火気厳禁 名称、製造者の名称及び住所
積載方法 :	運搬時の容器積み重ね高さは 3m 以下
混載禁止 :	第 1 類及び第 6 類の危険物、高圧ガス
海上規制情報 :	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 :	航空法の規定に従う。
特別な安全対策 :	車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人へイエローカードを携帯させる。 荷崩れ防止を確実にを行い、衝撃、転倒、落下、破損が生じないようにする。 その他、当データシートの取扱い、保管上の注意事項を参照のこと。

**15.適用法令**

消防法：	危険物 第4類 第2石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性液体(1000L) (法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
労働安全衛生法：	有機溶剤中毒予防規則 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 第2種有機溶剤等 名称等を表示すべき有害物(法第57条1、施行令第18条) シクロヘキサノン(政令番号：14-4) 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) シクロヘキサノン(政令番号：231) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) シクロヘキサノン(政令番号：57)
労働基準法：	疾病化学物質 (法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号)
化審法：	優先評価化学物質(法第2条第5項) シクロヘキサノン(政令番号：131)
環境基本法：	水質要調査項目
大気汚染防止法：	揮発性有機化合物(VOC)
海洋汚染防止法：	危険物 有害液体物質Z類
船舶安全法：	引火性液体類(危規則第2,3条)
航空法：	引火性液体(施行規則第194条3)

**16.その他の情報**

参考文献：	厚生労働省 職場のあんぜんサイト SDS 環境省 化学物質情報検索支援システム
記載内容の取扱い：	記載した内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により、改訂されることがあります。 また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。本製品を使用するに当たって、提供された情報を適用するかどうかの最終的な決定は使用者の責任で行って下さい。全ての物質は未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。 以上は情報提供であり、本情報による指示に従って本物質が取扱われていようといまいと、本物質の取扱いによって生じる損害等の結果に対する責任については一切責任を負いません。